

スポーツ国際交流員 (SEA)

資料4－7

SEA: Sports Exchange Advisor

- ・ 地方公共団体のスポーツを通じた国際交流及び競技力の向上をサポート

- ① スポーツ指導の助言・補助
- ② 優秀な選手等に対する専門的な指導
- ③ 職員・住民に対するスポーツ指導
- ④ スポーツ事業活動に対する助言 and more..



強豪国のスポーツ指導者と一緒に活動！

SEAの魅力

1. 国際大会開催地（キャンプ地等含む）での活用
（機運の醸成、まちづくり、遺産（レガシー）等）
2. 特定種目の指導に関する高度な専門知識
（マイナー競技でも優れた人材を供給）
3. 国体等に向けた競技力の向上に貢献
4. スポーツを通じた「国際人」づくりに貢献
（体育、部活動、少年団、生涯スポーツ事業）
5. 受入費用は地方交付税で全額措置



活用成果 (競技力の向上)

都道府県	競 技	Before	After
和歌山県	バドミントン	全国高校選抜近畿予選 団体・単・複 6位	共に3位！(H27)
山形県	アーチェリー	全国高校総体 出場なし	H25年～H27 連続出場！
長崎県	ウェイト リフティング	国体・全国高校総体等 3位以内ほぼなし	H25～H27 3位以内26名（うち優勝4名）
	アーチェリー	国体・全国高校総体等 3位以内なし	全国高校総体優勝 (H16) その後も優勝・入賞を続け、 H23には 世界ユース7位に！

活用成果 (関心度の向上)

都道府県	競 技	Before / After
和歌山県	バドミントン ハンドボール	新入部員3人 (H26) →7人 (H27) 新入部員7人 (H26) →18人 (H27)
北海道東川町	クロスカントリースキー	少年団員20人 (H25) →31人 (H27) 保護者から部活動として活動させたい という要望あり！

**さらに、幼児から大人まで地域住民に
対する指導・体験会などが好評！**



※主な実績。他多数実績あり。

東川町 オリンピックを目指す！



トリグヴァ・マルクセツさんの後任として昨年8月に 来町。東川クロスカントリースキー少年団のコーチを引き継いで指導しています。今季団員のみんなは、地方大会ながら優勝出来るまでに成長。低学年の子どもたちも新たに加えて団員は30人に増えました。

「竹田さんは去年から進歩していると言っているし、お母さんたちからも感謝されていると感じるよ」と充実感を実感しています。「少年団の子どもたちには、もう少し上のポジションに行って、将来オリンピックを目指すレベルになってくれれば良いと思ってるよ。今はスキーの楽しさをしっかり教えて、技術的なものはもう少し先。いろいろなスポーツをやらせたいと思っている」。町教委生涯学習指導員の竹田良和さん(42)と二人三脚の指導もあって10歳以上の子どもたちは30～40キロメートルは走れる走力がついてきたそう。



「何年いることが出来るか分からないけれど、子どもたちをどうやって上

ちの友好交流をしたいと思っている。キャンプを計画してもいいし、少年団は年齢別のトレーニングを取り入れて技術的なものを深めていきたい。チャレンジしていきたいね。社会人のコーチも出来たらしてみたい。地域スポーツ全体にも貢献できたらいいと思っているんだ。



ヘンリク・エンケさん

フィンランド共和国中央スオミ県ユヴァスキュラ市出身、26歳。東川町スポーツ国際交流員。ラップランド大学スポーツ学科在学中（今夏卒業予定）。スポーツインストラクター学位取得予定。20歳の時に踵に大けがをして2度の手術を受け、その後現役復帰。22歳の2011年、フィンランド国内のフォロラチャンピオンシップ大会にも出場を果たしました。その後23歳から24歳にかけて各種ナショナルコンペティション大会に出場。（一財）自治体国際化協会（JET）の外国人青年招へい事業で昨年8月、スポーツ国際交流員として来町。



今、生き生きと  東川町スポーツ国際交流員
ヘンリック・エンゲさん

とを細めています。と
 経目にな
 レ験の練
 てベそ習
 る行よ
 にも
 識ち
 ち
 氣
 よに
 余味と
 余話
 味あこ
 とすち
 話す伸
 間ど大
 言会
 い
 子うも
 がた
 ち
 子旭
 が岳
 が連
 れ
 シ
 旭
 ル
 チ
 ー
 ム
 の
 が
 い
 い
 思
 う
 よ
 ン
 と
 の
 キ
 の
 一
 少
 年
 成子ど
 績がグ
 ます
 命季に入
 たそ
 ス

平成28年2月 ひがしかわ広報誌

先生は元米プロバスケット選手 SEAで小中指導～西伊豆町

西伊豆町は本年度、国の外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して4人の外国人を講師に迎えている。8月までに米国やジャマイカから全員が来日し、子どもたちへの語学指導や地域の交流活動をスタートした。うち1人はスポーツ国際交流員（SEA）として来日した元プロバスケットボール選手で、対象は地域の小中学校。

SEAが子どもたちを専属で教えるのは、全国でも例がないケースという。

4人は、元プロバスケット選手の男性コディ・グレイミラーさん（30）＝シアトル、ワシントン大出身＝と、外国語指導助手（ALT）でいずれも女性のデйна・ナイバーグさん（21）＝サンフランシスコ、カリフォルニア大バークレー校出身＝、リンジー・ベローンさん（27）＝ワシントンDC、セントルイス大学院出身＝、ジリアン・チェンバースさん（26）＝ジャマイカ、ウエストインディーズ大出身＝。ALTの3人は主に保育園や幼稚園、小中学校で語学指導に当たっている。

町教育委員会によると、同事業を通じて多く外国人講師を配置することにより、地域レベルで英語力を底上げするとともに、国際交流の促進も図る狙いがあるという。



平成27年9月3日
伊豆新聞

ボート強化へ、強豪NZ指導者 本年度からSEAとして赴任（山形県）

スポーツ国際交流員（SEA）として本年度、ニュージーランド出身のベンジャミン・ボウルズさん（27）＝ボート競技＝が本県に赴任し、先月下旬から在籍する酒田市の酒田光陵高でボート部（22人）を指導している。今後、他の高校ボート部などの指導にも携わり、本県全体の競技力向上に努める。ボウルズさんは「全国のトップレベルと戦えるよう、ベストを尽くす」と意気込む。

今回、ボート競技の強化を目的に県教育委員会が自治体国際化協会に申請して実現した。任期は原則3年。県勢は、今夏の全国高校総体で8位入賞はあったが、高校生、一般選手ともなかなか全国上位には届いていない。佐藤康典県ボート協会理事長（酒田東高教諭）は「酒田光陵のほか酒田東、酒田西、新庄南高金山校の各高校ボート部などもボウルズさんのアドバイスを受け、実力アップが図られるのではないかと期待する。

ニュージーランドはボート競技が盛んで、世界の強豪国に名を連ねる。ボウルズさんは14歳から競技を始め、2007年にはU-21（21歳以下）の代表メンバーとしてオーストラリアユース五輪大会に出場。かじなしフォアで銀、エイトで銅メダルを獲得している。

日本とニュージーランドの競技環境の違いについて「日本はスカル種目が主流だが、母国では小さいころからさまざまな種目に親しみ、競技人口も多い」。日本選手の課題は、総合的な筋力強化と練習の質の向上と指摘する。



酒田光陵高ボート部顧問の伊藤茂樹教諭は基礎を重視する姿勢に関心を寄せ「オールの入水角度や腕の引き方などを実演してくれるので、生徒も理解しやすい」。ボウルズさんは「生徒は技術を吸収しようという向上心が高い」と語る。

冬季間はスピードアップに不可欠な太もも、広背筋を重点的に筋力トレーニングを行う。「日本人は小柄だが、体が大きい人間が勝つとは限らない」とボウルズさん。来春から京田川特設ボート場での水上指導では、オールの高さをそろえ、引くタイミングを合わせるなどこぎ手の呼吸を重視する方針だ。

平成27年9月23日
山形新聞

SEAの配置スケジュール

- 9月中旬 **配置要望照会** (CLAIR→都道府県(政令市)→市町村)
- 12月下旬 **要望締切** (市町村→都道府県(政令市)→CLAIR)
〈各自治体は希望するSEAの人数・競技・国籍等を記入し提出〉
- 8月 **各自治体に配置→勤務開始**

〈詳しくは下記にお問い合わせください〉

一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) JETプログラム事業部調整課

〒102-0083東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル6階

TEL: 03-5213-1727 E-mail: assen@clair.or.jp